



RRCJ

The Resilience Research Council of Japan

一般社団法人レジリエンス協会 メールマガジン

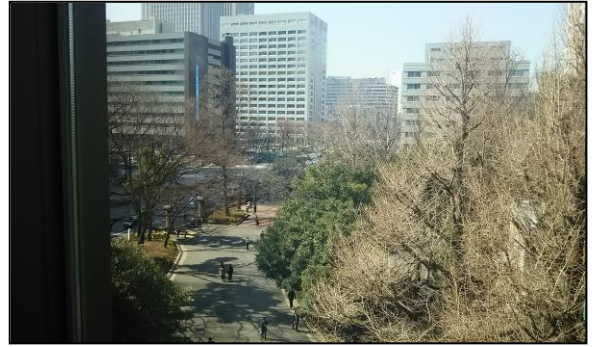
2016.5.26

(第 19 号)

この度の熊本地震で亡くなられた方のご冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表しますと共に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

【目次】

1. 「第20回 定例会」ダイジェスト報告
(2016年3月10日開催)
2. 次回「第21回定例会」開催のご案内
6月22日(水) 13:00~16:50
於；日比谷図書文化館
3. 会員募集のご案内



(日比谷図書文化館からの眺望：日比谷公園)

【1. 第20回 定例会；ダイジェスト報告】

日時：2016年3月10日(木) 13:00~16:50

場所：日比谷図書文化館

参加者数：34名(講演者を含む)

当日の講演に使用した資料は非公開のものを除き、講演者様のご協力によりレジリエンス協会HP内の「定例会」ページに掲載させていただいております(一部ないし割愛版を含む)。

https://resiliencej.wordpress.com/mtg_history/

<定例会内容>

- (1) 13:00~13:35 『スマートシティの取り組み』

増田幸宏 氏 (芝浦工業大学、当協会副会長)

[講演者抄録]

- 低炭素都市づくり、スマートシティ、スマートコミュニティ等に象徴されるように、現在様々なかたちでの環境配慮型の都市づくりが進められている。都市づくりにおいて、サステナビリティ(持続可能性)を如何に獲得できるのかということに対する活発な議論が行われている。今回は、東京都で現在進められている取り組みを通じて、オリンピック開催と2020年代半ばまでの都市づくりの動向について紹介をおこなった。



(2) 13:35～14:10 『水害対策』

土屋信行 氏 (公益法人リバーフロント研究所)



(3) 14:10～14:30 『小規模企業BCPの地域貢献と地区防災計画』

石井洋之 氏 (静岡大学)



講演内容詳細は協会HPに掲載の資料をご参照ください。

(4) 14:40～15:05 『災害時の燃料調達BCPの取り組み』

沖山雅彦 氏 (株式会社日立物流)



講演の概要資料は協会HPに掲載しております。



(5) 15:05～15:35 『電子トリアージ』

大園 建 氏 (東京エレクトロニクスシステムズ株式会社)

〔講演者抄録〕

「過去の災害から医療現場が学んだこと」

- 阪神淡路大震災では、初期医療体制の遅れから「避けられた災害死」(注1)が約500名存在した可能性があったとされた。JR福知山線脱線事故では、日本DMATが初めて災害現場に出動し、トリアージタグを利用した災害医療が展開されたが、脱線した列車が情報の壁となって、紙に手書きの医療活動では列車の左右の情報共有は必ずしも十分ではなかった。東日本大震災では、医療提供が可能な限られた病院に大量の傷病者が押し寄せ、トリアージによる治療優先度の判定が行われたが、分散した紙の情報から全体の傷病者の状況把握は困難だった。

- 災害医療の現場において「どこに」「どのような患者が」「どれくらいいて」「何人の医療スタッフが対応している」「どのような応援が必要か」といった情報の重要性が明らかになった。

(注1) 平時の救急医療レベルの医療(人・物)が提供されていけば救命できたと考えられる災害死。



「災害医療ソリューション」

- スマートホンとICタグを、「災害用電子カルテ」とした災害医療を支援するソリューションであり、災害発生時の「情報の収集と伝達と共有」を実現する。

「3SPidersのご紹介」

- スマートホンでは、顔写真を含む患者識別情報の収集、治療の優先度を定めるトリアージの自動判定、バイタルサインの記録、患者の容態を安定化させるための施行処置内容の記録等、DMAT活動全般を支援する情報収集が可能である。
- スマートホンで収集した情報は、ICタグに記録して患者と患者の情報を「情物一致」で確実に管理すると共に、サーバへ伝送される。サーバに伝送された患者情報は、医療対策本部のPCに表示され、治療優先度区分や各種バイタルサインに基づいた患者情報の並び替え等により、治療優先度の判断や安全な地域への搬送の判断及び搬送指示を行うことが可能である。

「自治体地域防災計画への適用可能範囲」

- 講演では、東京都地域防災計画(震災編)への対応範囲を示した。発災後の災害医療活動はもとより、災害訓練、避難所管理、行方不明者管理等への応用が可能であり、防災計画全般に適用が可能である。

「レジリエントな社会の実現に向けて」

- 日常持ち歩くクレジットカード等のICカードに、平時の医療情報を記録することで、突然の事故や病状悪化に伴う救急搬送時の救命率を向上させることが可能であり、万が一の災害時には、紹介した災害医療ソリューションをこのICカードにより利用する。日常の生活においては、クレジットカード利用ポイントの一部をシステム運用者へ還元し運用費用の捻出を可能とする。『ICカードがもたらす「安心・安全」な社会』の実現に向けて、活動を続けている。



講演時の資料は協会HPに掲載しております。ご覧ください。

(6) 15:40~16:20 『訓練プログラムのレビューと今後』

レジリエンス協会 演習研究会

〔講演者抄録〕

- 過去4回訓練を実施してきたが、教訓や課題の整理は訓練の後に参加者と実施するべきだが、時間の関係で実施をできなかったため、これまでの4回分をまとめた総括として報告をした。最後に、テュフラインランド ジャパンから、実際の演習時の記録映像を使い、同社の体制や考え方も紹介した。
- 参加者からの評価: アンケートでは5点満点で4.5点以上の高い評価となった。また、アンケートに記載いただいたコメントを項目別に分類・集計をしたところ、何らかの教訓や反省につながったという評価が多かった。同時に、改善に関する提案も多数頂いた。

● シナリオの狙い：実効性を上げるために、訓練の中で実際の状況になるような様々な方法を取り入れた。実際の企業での実例を活用してシナリオを作成した。4回目からは、ISO22398の適応も始めた（“訓練”を“演習”に統一するなど用語の修正、企画のプロセスの導入、など）。

● 懸念事項：訓練通じて共通してみられる課題を整理し説明した。例えば、

- 発災直後の混乱の中でも、平時の対応に近い方法をとるチームが多く、緊急時の体制に移行することが難しいことが分かった。
- 様々な事象の経験の累積でスキルを上げる経験による改善を目指し、目標達成型への移行が難しいなど、参加者と企画者の両方に訓練の様々な課題が判明した。



● 今後の方法：説明した様々な課題があり、これらの課題を検討するために、演習研究会を設立して研究を継続することになった（主査：上田悦久、副主査：田中弘明）。現在参加者の募集中です。

❖ 演習研究会のメンバー募集 ❖

❖ 目的：演習（訓練）の研究（手法、方法、効果測定、構築など）

❖ 開催：月一回 於 シーマ・ラボ・ジャパン 会議室

❖ 研究成果：実際に演習を実施する。

❖ メンバーへのお願い：各自が貢献、テーマを分担する。

❖ お申し込み：見学参加も歓迎いたします。

email: yoshihisa.ueda@gmail.com subject: 演習研究会申し込み

● 事例紹介：テュフラインランド ジャパンの Goorrdon Moir さんから同社の防災訓練の記録ビデオの紹介と、危機管理と BCP に関する紹介をした。



➡ 講演時の資料は協会HPに掲載しております。ご覧ください。

(7) 16:20～16:50 『標準化ビジネス』

若井博雄 一般財団 日本規格協会

〔講演者抄録〕

「標準化活用支援パートナーシップ制度」

- 経済産業省は、我が国の産業競争力と地域・地方の稼ぐ力の強化を目指し、中堅・中小企業などのイノベーションを、標準化を通じて支援する取り組みの一環として、地域の金融機関、公設試験研究機関、産業振興機関などのパートナー機関と日本規格協会（JSA）とが連携した「標準化活用支援パートナーシップ制度」を2015年11月4日に創設しました。この制度は、地域の中堅・中小企業などが有する尖った技術・製品を発掘し、標準化を通して国内外のマーケティングを支援するのがねらいです。
- パートナー機関は地域の技術的なシーズを集め、それをJSAにつなげていただくという役割を担います。それらは、地域の金融機関、公設試験研究機関・大学及び自治体・産業振興機関と3種類あり、それぞれ数として大凡3分の1位ずつになっています。
- パートナー機関の中に地域の金融機関が入っているのもポイントです。金融機関の重要な役割の1

つが、どういう技術に投資すべきか、という技術マッチングだと思いますが、そのマッチングにこの制度はお役に立てると思います。

「標準化アドバイザー」

- 支援側である日本規格協会が提供する標準化アドバイザーの重要な役割は、「規格になるかどうかを判断すること」だけではなく、「どうしたら規格になるかを教えること」です。「あなたが書いた規格はここが悪いからダメです」と指摘するのではなく、「この技術開発は、こういうような規格を作れば、あなたのビジネスに合致した規格になります」と指導するものです。



「この制度が計画している規格開発の規模」

- 現在、日本工業規格（JIS）は年間約 500 発行され、そのうちの約 200 が新規規格、約 300 が改正規格です。経済産業省は 2020 年までに、この制度による標準化を JIS（および国際規格を含め）を約 100 発行したいと考えています。ですから、今後新規 JIS の 10 分の 1 位はこの制度で作りたいと考えています。しかしとはいえ、JIS の規格開発の主流は、学会・産業界が中心となって作成する規格であり、これは今後も変わることはなく、変えてはいけないと、私は考えています、共存させながら新しい制度を発展させる、そして、標準化を通じて、中堅・中小企業などの技術や製品の販路拡大に貢献する。大きな仕事です。

新市場創造型標準化制度：

<http://www.jisc.go.jp/std/newmarket.html>

「新市場創造型標準化制度」を活用した標準化案件を 4 件決定しました。

<http://www.meti.go.jp/press/2015/01/20160129001/20160129001.html>

16:50 閉会

【2. 次回『第20回定例会』開催のご案内】

日 時：2016 年 6 月 22 日（水） 13:00 – 16:50

場 所：千代田区立 日比谷図書文化館 小ホール 千代田区日比谷公園 1 番 4 号
(大代表) 03-3502-3340

<http://hibiyal.jp/hibiya/access.html>

参加費：会員；無料

一般；3,000 円 会費は当日、会場受付でお支払下さい。

(お釣りが無い様をお願いします。)

事前登録のお願い：会員の方も一般の方も、参加する際には事前登録をお願い致しております。

以下のアドレスにお申込み下さい。領収書が必要な方はその旨お知らせください。当日受付でお渡し致します。

申込登録は ⇒ http://www.kokuchpro.com/event/rrcj_201606/

<プログラム>

12:30 - 13:00 — 受付 —

13:00 - 13:40	『会長講話』 林 春男、防災科学技術研究所
13:40 - 14:20	『スマートシティ』 増田幸宏、芝浦工業大学
14:20 - 14:30	— 休憩 —
14:30 - 15:10	『システムズ・レジリエンス』 丸山 宏、株式会社 Preferred Networks
15:10 - 15:50	『レジリエンスの評価① ISO22325』 田代邦幸、株式会社インターリスク総研
15:50 - 16:00	— 休憩 —
16:00 - 16:40	『レジリエンスの評価② 国土強靱化』 榎本純夫、SONPOリスクアマネジメント株式会社
16:40	閉会

※ 以上は、現時点での予定です。今後変更となる場合もあります。ご了承ください。

【3. 会員募集のお知らせ】

◎ 当協会では会員を募集しております。当協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として各業種、団体等の方々にお気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会に参加いただき、会の活動状況等を実際にご確認いただければと思っています。

(参考) 個人会員の年会費は 10,000 円 (消費税込) です。年 6 回程度開催予定の定例会・訓練会等の参加費 (1 回 3,000 円×6 回) が無料となる他、各研究会 (チーム) にも自由に参加することができます。

法人会員 (100,000 円+消費税) もあります。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

<https://resiliencej.wordpress.com/aboutus/application/>

※レジリエンス協会のメールマガジンは次の方々にお送りしています。

- ① 当協会の会員および会員から紹介のあった方。
- ② 当協会開催のイベントに、申込み・参加された方でメールアドレスをお知らせ頂いた方。
- ③ 当協会の関係者と名刺交換された方で、レジリエンスにご関心があると思われる方。

※ 当協会のメールマガジンにお心当たりがない場合、また講読を中止する場合は、以下までメールにてお知らせください。登録を解除いたします。

「info@resilience-japan.org」

※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。

引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。

※ 本メールマガジンに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>
